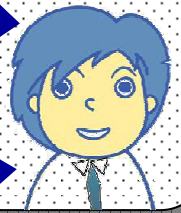




ねっむわーく



H24. 07. 11

No.24

■現代っ子版 雨ニモアテズ

雨にもあてず 風にもあてず
 雪にも 夏の暑さにもあてず
 ぶよぶよの体に たくさん着込み
 意欲もなく 体力もなく いつもブツブツ不満を言っている

毎日塾に追われ テレビに吸いついて遊ばず
 朝からあくびをし 集会があれば貧血を起こし
 あらゆることを 自分のためだけ考えてかえりみず
 作業はグズグズ注意散漫し すぐに飽き そしてすぐ忘れ
 りっぱな家の 自分の部屋に閉じこもっていて

東に病人あれば 医者が悪いと言い
 西に疲れた母あれば 養老院に行けと言い
 南に死にそうな人があれば 寿命だと言い
 北にけんかや訴訟があれば 眺めてかかわらず

ひでりのときは 冷房をつけ
 みんなに勉強勉強と言われ
 叱られもせず 怖いものも知らず

こんな現代っ子にだれがした



(作 杉田 洋)

6月20日の、地区特別活動活動部会にて、講師の小林先生より紹介いただいた、ご存じ宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の替え詩ですね。

痛烈な、しかし、ある意味、的を射ているところもあると思いませんか？ なんか、切ないですね。こんな子どもたちに絶対にしたくない！はずです。

何事にも、自分事として、他と関わりながら、よりよい生活をめざしていく子どもたちにしたい。だからこそ、本校では、特別活動を窓口として研究を進めているんですよね…。がんばりましょう！（と自分に言い聞かせている今日この頃です。）(*^_^*)